



# 国際化の最前線から



## 「つなぐ」国際協力まちづくり

国際協力&まちづくり NGO 野毛坂グローバル 代表 奥井 利幸

### 外国人は地域活動の担い手

日本に滞在する外国人が増えている。「ゴミ出しルールを守らない」、「行事に非協力的」など、地域では一般的にはあまり評判がよくない外国人だが、一方で「地域活動に興味がある／参加したい」という外国人が多いとの調査結果もある。外国人比率が50%を超える川口市芝園団地では高齢日本人と若い外国人の共生を目指す活動が盛んであり、横浜市西区では若者のNPOの呼びかけで外国人が自治会の運動会で大活躍し盛り上げている。

外国人を地域の「負担」とするのではなく、「担い手」と位置付けることは今後ますます重要になると思われる。

また日本に比べて行政サービスが弱い途上国では、地域コミュニティの自助・共助活動が活発に行われており、日本のコミュニティ活性化の糸口を途上国から学ぶことも多いのではないかと感じている。

そのためには外国人との共生に関して、地方自治体の行政職員が理解を深めることが重要である。

### 「つなぐ」役割

野毛坂グローバルは国際協力や日本でのまちづくりを多数実施しているが、小さな団体でもあり、単独でできることは限られている。しかしそれゆえ他団体と連携・協力せざるをえないことが逆に強みとなっている。たとえば途上国の自治体などに日本の自治体などを紹介し、連携促進をすることで多くの組織が協力して国際協力を

行える。日本の自治体にとっては途上国に一方的に貢献するのではなく、事業を通じて自治体の国際化や職員の能力向上にも役立つことが期待できる。

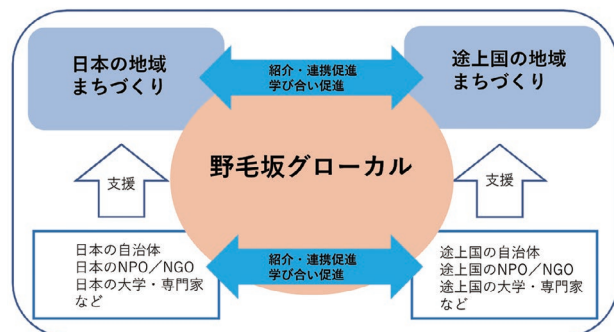
具体例として、タイのブンイトー市で実施する高齢者ケア事業ではタマサート大学、神奈川県湯河原町行政や介護事業者が協力し、この縁で2019年7月には湯河原町とブンイトー市の協力の覚書締結など関係の深化が進む。



タイの自治体職員向け訪日高齢者福祉研修の実施

また、2017年からタイの自治体幹部職員向けの訪日高齢者福祉研修、また訪日青少年育成研修あるいは訪日小学校教育研修などを神奈川県横浜市、川崎市、小田原市、湯河原町、真鶴町、山北町や民間団体などの協力のもと合計約30回、計1,000人以上の政府機関職員研修を実施した。その結果タイの観光都市であるホワヒン市が小田原市に友好関係の打診をするなど日本の自治体と協力関係を持ちたいとする途上国の自治体も増えている。

今後とも、日本と途上国双方の利益となる橋渡しを通じた国際協力をすすめていきたい。



日本と途上国をつなぐことを目指す野毛坂グローバル

### プロフィール

奥井 利幸 (おくい としゆき)  
国際協力&まちづくり NGO 野毛坂グローバル代表。  
アジアの国々での国際協力機構 (JICA) 社会的弱者支援 / コミュニティ開発プロジェクト専門家を経て2016年に野毛坂グローバルを設立。  
『誰一人取り残さない』地域コミュニティづくりを目指して途上国 / 日本の双方で活動を実践している。